

○ 委員長報告

9月定例本会議で報告された建設委員長報告は、以下のとおりです。

令和8年9月定例会

建設委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、民間住宅等における防災・減災対策についてであります。

このことについて一部の委員から、取組内容はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、木造住宅耐震化促進事業は、今回の熊本地震を受け、住宅の耐震診断の申込件数の増加が想定されるため、今回の補正予算案で耐震診断270件分、耐震改修設計130件分を、また、特定老朽危険空家等除却促進事業は、当初の想定を上回る相談が市町に寄せられるなど、市町からの追加要望を踏まえ、補正予算案に50件分、これらを合わせて約2,800万円を追加計上している。

今後も、市町や関係団体と連携し、情報発信に加えて、地域住民が参加する防災訓練や防災講習会など、あらゆる機会を捉え、耐震化の意識啓発を一層進めるほか、工事費が安価で、居住しながら工事が可能な低コスト工法の普及にも取り組み、耐震化率の向上に努めたい旨の答弁がありました。

第2点は、J R松山駅周辺整備についてであります。

このことについて一部の委員から、鉄道高架化や街路整備等の県事業が完了したが、今後、県はどう関わっていくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、9月14日に松山駅西口南江戸線が開通したことをもって、県事業は完了したが、引き続き、地元住民などの意見を調整する「松山駅まち会議」に参画していくほか、交通結節機能の強化に向けた意見や助言を行うなど、J R四国や伊予鉄道等と連携して取り組んでいくとともに、駅東口の県取得予定地の活用にも協力していく。

また、バスタ整備に関連し、駅周辺の回遊性向上の観点から「松山駅交通拠点機能強化検討会」などで意見・助言を行うほか、道路空間の有効活用に関する社会実験にも協力することで、スピード感のある取組となるよう、松山市のまちづくりを後押ししていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、令和8年度事業の執行状況等についてであります。

このことについて一部の委員から、防災・減災対策など公共事業の計画的な執行に取り組んでいる中、今年度の事業執行状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、令和8年度当初予算と前年度からの繰越予算を合わせた今年度予算の上半期の執行目標は、工事量の過度な集中を避け、施工時期の平準化も考慮しながら80%超とする計画を策定している。各地方局建設部・土木事務所とも連携して、毎月の執行状況を共有しながら事業に取り組んだところ、9月末時点の速報値では目標を達成している。

公共事業の着実な実施は、防災・減災対策による県民の安全・安心の確保や地域経済の活性化に繋がることから、引き続き、工事の早期完成に努めていきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・ 9月補正予算案の概要
- ・ アンダーパスにおける冠水事故対策
- ・ 内水氾濫対策

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。